

## 令和4年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

| 事業名   |  | 鹿行広域DMOプロジェクト   |             |
|---|--|---|-------------|
| 事業の概要   |  | <p>FIFAクラブワールドカップ2016で準優勝した鹿島アントラーズと連携した「スポーツ合宿」を柱としたスポーツツーリズムブランドや、農業が盛んな当地域の強みを活かしたグリーンツーリズムブランドを創出するため、鹿行地区版DMOを設立し、国内だけでなくインバウンド向けスポーツ合宿商品、鹿島神宮や水郷特有の観光資源を活用したインバウンド向けフォトウェディング商品及び豊富な農産物を活用した農業体験商品等を造成する。特に、合宿商品では今後増加が見込まれるムスリムに対応するものなどを含め、スポーツ施設や合宿所の増加を図り、ムスリム圏において「海外合宿は日本・鹿行へ」と言われるようプロモーションを推進していく。そのためには、国内外の地勢、政治、経済、旅行先傾向、嗜好等に精通する旅行業務取扱管理者及びマーケティング担当者が、造成した商品を国内のみならず、ムスリム圏をはじめとする海外市場に展開する。その結果、外貨(地域外からのお金)を稼ぐ仕組みが作られるとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化が図られる。</p> <p>また、全国に先駆けた観光地域づくりの取組としては、前述のムスリム対応合宿所の増加のほか、国内で利用者が1千万人を超えるスマホアプリ事業者と連携し、DMO実施事業に対する予約体制を構築するとともに、域内市民の統一コミュニケーションツールの作成準備をしている。</p> <p>また、地域商社の要素として、地域資源を活用した土産物や特産品を開発し、マーケティングの手法を駆使して新規開拓を行い、商品の販売を促進していく。</p> |             |
| 事業の評価   |  | 実績値を踏まえた事業の今後について   |             |
| 評価  | 評価に対する意見・理由  | 今後の方針   | 今後の方針を選んだ理由 |
| ①取組事業がKPI達成に有効であった  | <p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業における実績値で④スポーツイベント農業体験後の民泊売上げは良くできていると思う。その他3項目についてはコロナ禍の中はあるが、よくやっていると思う。今後の継続的な事業連携を期待する。</li> <li>・鹿島アントラーズのバスツアーには来賓として選手参加がなかったのが残念だった。</li> <li>・「鹿島たこ&amp;地酒セット」をアンテナショップでやっていたことがわからなかった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の中でもあり、達成度としては物足りなかったが、事業全体としては魅力あるものであり、人の流れの復活と共に取組事業は進めていけると思う。</li> <li>・コロナ禍のなかで事業ができたことが良かった。</li> <li>・コロナ禍のため、KPIが未達成なのは仕方のないことかと思います。貴重な資源を活用するプロジェクトのため、銚田市及び鹿行地域ひいては茨城県の発展のためには、力を入れていく事業だと感じております。アントラーズ、サッカーに関する資源を有効かつ継続的に展開していただければ幸いです。</li> <li>・事業期間の2/5がコロナ禍であったことから達成度が十分でない部分があるところは仕方がないと言えよう。</li> <li>・クラブバスツアーなど着眼点が面白い事業もあり興味を持った。鹿行5市それぞれ特色があるので、柔軟な発想でその特色をうまくつなぎ合わせて多くの人の興味をひくような事業を今後も創出していただきたい。特に空き家を利用した民泊の事業が継続できるとよいと考える。(治安の問題等配慮しなければならない点もあろうと思うが)</li> <li>・5市連携した取組として評価したい。評価として5市の評価となっているが、銚田市単体としての実績や評価については検証が必要では。その上で継続した事業を選定して取り組んでいただきたい。</li> <li>・スポーツツーリズムについて各クラブ単体の合宿に加え、アントラーズ、県内小中高を交えた大会を増やせるとよりよいと思われる。</li> <li>・バブル方式については、コロナの問題が収束した際には無くなる事業の為、本来のスポーツツーリズムにおける取組に戻る必要がある。</li> <li>・アントラーズバスツアーについては、稼働できる時期が限られているものの、試合のない日に地域を訪れる人の増加につながるため、継続できればと思う。</li> <li>・アントラーズで訪れた人が試合の翌日、試合の無い日に農業などで来れるよう体験のイベントを作るため協力できる事業者の募集が必要と思われる。</li> <li>・アントラーズバスツアーですが、貴重な体験が出来る事業ですので、今後も継続していただければと思います。特に子供たちの参加が多いとよいと思います。</li> <li>・DMO電気については、事業撤退している会社が多いと聞いています。鹿行DMOの事業としても適当ではないのではないのでしょうか。</li> <li>・コロナにより外国人を対象としての事業は成立しなかったが、アントラーズバスツアーやモニターツアーなどコロナ禍においても成果をあげられたと思う。</li> <li>・とくにイベント後の民泊の利用がとて多かったことに驚きました。</li> <li>・事業は一旦終了となるようですが、この成果を生かし銚田市独自でもおもしろい体験ツアーなどが実施できると良いと思う。</li> </ul> | <p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>  |             |
| ②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった  | <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿島アントラーズバスツアーはファンにとっては魅力的だと思います。100名程度の参加ということでしたが、もう少し規模を拡大して実施しても集客、利益があがると思いましたが。アイデアはとて良いと思います。</li> <li>・自走事業の「銚田のうまいもんBOX」の販売数が158セットというのは少なく感じます。鹿行アンテナショップ以外でも、あるいはネット通販でも買えるようにしたり、種類を増やすなどの工夫が出来るのではないかと思います。</li> <li>・事業の取組自体は良かったと思うのですが、完走Tシャツ購入枚数35名というのうまいもんBOX158セットのように残念ながら結果があまり伸びていないと感じました。</li> <li>・銚田市がほとんど恩恵を受けていない。インバウンドや県外からの来客を期待しすぎである。リピートを増やしたいのであれば、県内や近郊からの来客を増やす事業へスイッチした方が良いと考える。銚田の特徴が何であるかわからない。</li> <li>・鹿行5市の中で銚田市のかかわりが少ない気がする。他4市、特に鹿嶋市のために協力しているような感じがする。</li> <li>・事業内容は良いと思いますが、この数年のコロナの影響があるので効果があったとは言えない。</li> <li>・新電力事業は今後の見通しが立たないと思うので見直したほうが良いと思う。</li> <li>・銚田市内の利用が少ないようなので今後は総合運動公園等を利用したスポーツイベントなどを計画して欲しい。</li> <li>・自走事業(商社事業)の販売実績を見ると販売数が少ないので、販売チャンネル・商品のラインナップを見直した方が良い。</li> </ul>   | <p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>   |             |
| 無回答   | 0  | 無回答   |             |
| 有識者評価に対する事業担当者のコメント   |  |   |             |
| 自治体からの負担金拠出は令和3年度で終了となったが、令和4年度以降も引き続き、アントラーズホームタウンDMOとの連携性を維持し、銚田市の特色を打ち出した観光施策の実施や、スポーツツーリズムの市内活用についての働きかけをおこなっていく。 |  |   |             |

## 令和4年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

| 事業名  |             | つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト                         |   |  |
|--|-------------|--|---|--|
| 事業の概要  |             | 事業の評価  |   |  |
| <p>【茨城県】</p> <p>(1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わり合いの機会の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。</p> <p>(2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。</p> <p>上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築)</p> <p>【連携市町】</p> <p>県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」を呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。</p> |             | 実績値を踏まえた事業の今後について                              |   |  |
| 評価   | 評価に対する意見・理由 | 今後の方針  | 今後の方針を選んだ理由   |  |
| ①取組事業がKPI達成に有効であった   | 13          | <p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p> | <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業誘致は工業団地に物流拠点倉庫建設が良いと思います。</li> <li>産学官連携事業についてはR4.8.13付「茨城新聞」に県としては「教育旅行は将来的に観光の柱の一つとなり得ると考えている」と載っていました。更に発展させるべき事業として銚田市としても農業体験などを学習コンテンツの一つとして提案していく事も可能なのではないでしょうか。</li> <li>東京圏のフリーランス等による新たな「しごと」の創出に関しても何らかの事業が創出されることを望みます。</li> <li>このプロジェクトはコロナ禍の今だからこそさらに発展させていくべきものだと考える。ポイントは仕事の創出だと考える。ぜひ積極的に連携企業を開拓していただき、銚田市、茨城県の豊かな自然環境で心豊かな生活を送ろうとする「若者」が増加することに期待したい。多少手を入れれば住める空き家はたくさんある。産学官連携の「学」の部分で大学も含めた研究機関との連携も視野に入れて欲しい。</li> <li>産学官連携に対する取り組みをより多く取り入れた事業を追加し、地域資源の発掘と活用に取り組んでほしい。</li> <li>より多くの企業と連携していけるとすばらしい。銚田市らしさを前面に出して行ってほしい。</li> <li>中学生のバレーボール部の交流については、可能であれば、小、高又は、他の競技へと拡大できると考える。</li> <li>オフラインでの活動を前提とするとアクセスの問題があり、便のいいところへ人が流れてしまうが、オンラインでカバーをすることができれば、子育て世帯への定住を図りやすいと思われる。</li> <li>企業誘致・移住者を増やしていくには銚田市に魅力的な部分がないと難しいと思うので受け入れる市自体をどれだけ企業・人にとって「移転したい、移住したい」と思わせるまちづくりをしていけるかが大きいと思います。</li> <li>ワークショップ・企業誘致イベントで出た意見を検証し、改善していく事が必要だと思う。</li> <li>プロスポーツチームとの交流会はコロナ禍ということで、オフライン開催となったが、今後は是非直接対面で行えると良いと思います。</li> </ul> |  |
|  |             | ②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)               | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>銚田市の令和4年度事業予定が策定されており、着実な実施をお願いします。</li> <li>前年度の事業成果を活かし、今後につなげてほしい。</li> <li>(企業実証実験の件)</li> <li>若手農家の座談会について30～40代とあったが、作っている作物、100%JA出荷か、個人的な販売ルートでの出荷かでも大きく変わってくる。もう少し幅広い意見が欲しいと思った。</li> <li>(プロスポーツチームボランティア組織)</li> <li>プロの方々との交流は子供たちへ良い刺激になると思うので今後も継続して欲しい。</li> </ul> |
| ②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった   | 2           | ③事業内容の見直し(改善)を行うべきである                          | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>机上の空論ではなく、実践的な事業として進めてもらいたい。</li> <li>「銚田市」として本プロジェクトの何を重視して取り組んでいくのか、どう効果を出していくのか見立てが欲しいです。意識付け、意見交換にとどまらず、次どのようにつなげていくかを考えた上で、計画してみたいかがでしょうか。単発での取組という印象を受けました。</li> <li>移住から永住者を増やすため、住みやすさや働きやすさへの取り組みが更に必要と考える。周辺市町との違い、こだわりを活かす取り組みが必要。そのためにも違いを見つけ出すことが重要。</li> </ul>      |
| 無回答  | 0           | ④事業実施を中止すべきである                                 | 0   |  |
|  |             | 無回答  | 0   |  |
| 有識者評価に対する事業担当者のコメント  |             |  |   |  |
| <p>市の強みを活かし、市民や学生等に「ふるさと意識」の醸成をはかる取組として進めてきたプロスポーツチームとの交流や企業との連携事業に一定の評価をいただき、今後も発展した取組として進めていく。</p> <p>住民への意識付けが中心となっており、先に繋がっていないとの意見を受け止め、ひとつひとつの取組が単発ではなく包括的に繋がり、「関係人口」が地域と多様に関わる機会を創出していききたい。</p>   |             |  |   |  |

## 令和4年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果

| 事業名   | 「農業と観光のハーモニー」DAPPE project  |   |   |
|---|---|---|---|
| 事業の概要   | <p>従来の行政の枠組みを超えた本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多様な観光推進事業を推進するため、その中心的な役割を担う一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会を設立し、市直売所のリニューアルに併せ、観光客が市内を観光する足掛かりとなる情報発信機能を持たせ、農業体験事業やイベント等、誘客につながる取り組みを進めていく。</p> <p>農業・農産物をツールとした観光コンテンツの創出、それらを活用した市内回遊・滞留の仕組みづくり、地域ブランドを活かした商品開発やその販路拡大を進めていく。</p> <p>また、戦略的な情報発信を展開することで、銚田市への観光入込客数の増加を目指す。実需者である観光客と農業生産者との交流の中で、ただ生産するのではなくマーケット・イン思考な農業をつくり、地域の「稼ぐ力」の向上とさらなる雇用の創出を目指していく。</p> <p>さらに、流行に敏感な都会の若者をターゲットとした交流事業を実施することで、地元住民には気づかない農産物の付加価値の付け方を模索するとともに、「稼げる農業」に興味のある都会の若者の移住等に繋げていく。</p> <p>更に、市内の他の事業者・他業界(直売所や飲食店組合等)と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく。加えて、都市部女性と農業者の交流事業やプロモーションを通じて、都市部女性の取り込みや交流人口拡大を行う。</p>  |   |   |
| 事業の評価   |   | 実績値を踏まえた事業の今後について                       |   |
| 評価  | 評価に対する意見・理由   | 今後の方針                                   | 今後の方針を選んだ理由   |
| ①取組事業がKPI達成に有効であった  | <p>14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度観光入込客数69.8%、滞在人口率98.6%、農業産出額83.1%、関係人口数158.3%と目標年度にむけて着実な実績を上げているように見える。</li> <li>・コロナ社会の中であり達成度は低かったが、取組事業は今後の市の有力産業であるので進めてもらいたい。</li> <li>・「銚田市地域資源ブランド力向上事業」はインフルエンサーを活用したPR、キャンペーン、ブランド化戦略のためのポップストア開設、クックパッドの公式アプリ開設など非常にアイデア豊富に展開していると感じました。更なる充実を期待します。</li> <li>・シティプロモーション事業ではWEBサイトコンテンツが充実していて驚きました。今後も充実させて頂きたいと思います。</li> <li>・目的や課題がより明確になった。本市の地域性や有利性、特産品などの活用を期待する。</li> <li>・地方創生の実現における構造的な課題がある中、魅力的かつ効果的な取組をしていただくと感じます。一般社団法人銚田市観光物産協会の将来性が見込め、イメージもわかりました。「農業×観光」「農業×物産」を切り口とした取組方針に基づき、展開されることもよくわかりました。子どもたちへ向けた就農意欲の喚起もすごく大切だと感じました。</li> <li>・ここ数年、銚田市に関するメディア露出が多くなったと感じることが増えた。こうしたプロジェクトの効果があったものと考えている。現状の達成度を見ても事業期間で達成可能ではないだろうか。これだけの事業推進に頭が下がる思いです。</li> <li>・銚田市観光物産協会の事業は有効性が見える化出来て有効であった。</li> <li>・地域資源ブランド力向上の取り組みは有効性があり評価できる。引き続きブラッシュアップして欲しい。</li> <li>・観光事業(特に観光客の受入等)への取り組みが弱かったのではないかと。</li> <li>・観光協会のサイクリングマップは役に立つと思う。広域レンタサイクル事業も魅力的だと思った。</li> <li>・飲食店とコラボしたメニューフェアも行ってみたいと思った。地元でも食べられるようなフェアになれば県民にも広くアピールできると思う。様々なプロモーションツールがあり、素晴らしいと思う。今度ゆっくり見てみたい。</li> <li>・交流人口から移住促進まで様々なニーズに対応した動画等の作成で広報を強化している。グリーンツーリズムについては、DMOなどの連携が考えられる。</li> <li>・メディアでの銚田市を取り上げる回数は非常に増えてきているのでGWなどの他県からの観光客が多くなってきていると思う。</li> <li>・コロナ禍で実績の落ち込みはあるが、現実的には他県からの流入は増えている。</li> <li>・プロモーション動画等PRするアイテムがたくさんあるので、今後はそれをいかに広めていくかを考えていく必要がある。</li> <li>・農産物のブランド化戦略、消費拡大、需要喚起を行っている中、銚田の知名度も上がり、今年はメロンの販売も非常に良好と聞いています。</li> <li>・メディアへの積極的な露出は効果大だと思う。</li> <li>・「就農支援の情報発信」で農業者のクリアファイル作成では自分もプロジェクトに参加しました。カッコいい農業者がテーマで撮影しましたが、今後も発信していくなら、若手農業者の成功例なども伝えていくと良いかもしれません。</li> </ul> | ①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大) | <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京からの距離は直線で100km圏内であることを、もっと便利であることをアピールするべきである。しかも湖と海がある所は全国でも珍しいと思います。</li> <li>・有機農業(有機メロン)を取り入れるべきだと思います。</li> <li>・廃校利活用においてはキャンプ場経営を行った方が良いと思う。</li> <li>・4つの課と1つの協会がそれぞれ事業を進めているが、重複するような事業であるので、今後は協力し合って事業拡大を望む。</li> <li>・銚田市は、海、湖、農産物など魅力的な素材が豊富であり、災害も少なく温暖で住みやすい所です。これからはそれらをどうPRしていくかが大きな鍵だと思いますので、更にアイデアを出し合い発信して欲しいと思います。</li> <li>・コロナ禍の中、鹿島灘海浜公園の来訪者が増えていますので売店の充実などによりもっと集客数が増えるのではないかと考えます。</li> <li>・地産地消に対する取り組みを発展させてほしい。市独自のDMOや民間企業の立ち上げ等SNSを活用した取組の強化</li> <li>・銚田市の強みを様々な方法で形にしている。3つの事業それぞれが効果的に関わっている。地元の新聞社としてこれからも市と連携しながら、積極的に広報していきたい。銚田市のよさをもっと県内の人たちにってもらうお手伝いをしたい。</li> <li>・インスタであたり、銚田市のアプリ「HOKOTTA」についてはもう少し気軽に銚田を知ってもらうためのものなので広報の工夫が必要と思われる。一概にフォロワー数で決まるものではないが、市のインスタ2,200に対し、観光物産協会1,341という数字は少し寂しいと感じる。</li> <li>・移住より気軽に考える交流人口の問題についてはもう少し目に触れやすいものが必要と思われる。</li> <li>・農産物など農業の部分では良いが、観光の面が非常に弱いので買い物に来て銚田に滞在はしないので、観光面の強化をもっと進めていく事が望ましい。</li> <li>・プロモーション動画・ブランドPRなどの活動を銚田の市民にあまり認知されていない。市民一人一人がPR大使となることもあるので市民にもっと活動を知ってもらった方が良いのではないかと。動画へのアクセス数をどのようにして増やしていくかが課題。</li> <li>・今度もメディア戦略を効率的に行っていたら、更なる銚田の知名度アップ、農産物のブランド化を図ってください。</li> </ul> |
| ②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった  | <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部への女性の流出のきっかけは大学進学によるものと言われていた。また、女性が活躍できる職場も銚田周辺に少ないため、Uターンしないのではないだろうか。</li> <li>・銚田市観光物産協会の取組に関しては、進行始めたばかりであり、有効性は計ることができない。</li> </ul>  | ②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)        | <p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現事業を継続して着実な実績を上げてから、更なる取組を行った方が良いと思う。</li> <li>・事業成果が表れるためには、一定程度の期間が必要であり、事業の継続が必要と思われる。</li> <li>・ただし、同じことを継続するのではなく、時代(コロナ禍)の流れに沿った事業となるよう工夫をする必要があると思います。</li> <li>・高速道路が通り、観光客を増やす後押しはあると思います。また、キャンプやアウトドア人気もあるため、今行っている取組をさらに工夫して展開いただければ幸いです。</li> <li>・現状の事業内容もかなり多岐にわたっていることから、この事業の着実な実施が大切だと考える。</li> <li>・市民として自らの努力も足りないのだとは思いますが、これだけの事業を戦略的に展開していることを「市民」に情報発信していく事が必要であると考えます。市民が行政の応援団になってくれるものと期待したい。</li> <li>・銚田市観光物産協会の活動内容のところで業務受託の項目で「銚田市出身の大学生に支援物資を送る」事業がありますが、実はうちの長男が他県の大学にいますので、せっかくだから申し込んだら？と話したところすぐに注文しました。届くまでに少々時間がかかったようですが、たくさんの銚田の物産が入っていて喜んでいました。</li> </ul>   |
| 無回答   | 0   | ③事業内容の見直し(改善)を行うべきである                   | 1   |
| 無回答   | 0   | ④事業実施を中止すべきである                          | 0   |
| 有識者評価に対する事業担当者コメント  |   |   |   |
| <p>令和3年度は、コロナ禍により観光客の受け入れが難しかったことから、農業を中心とした観光資源の開発に注力してきた経緯がある。今後は、開発した観光資源を活用しながら、市内に観光客を受入れる手法について検討を進めていく。</p> <p>コロナ禍が続く中、農産物の付加価値を上げる効果的なPR方法については試行錯誤してきた。今回、メディアの露出が増えた点やメニューフェア、レシピの発信などに一定の評価をいただき、今後も発展した事業内容を展開していく所存。実施内容を市民に伝えられていない、市民一人一人がPR大使となり得るという意見を受け止め、市民に向けた事業周知・情報発信にも注力したい。</p> |   |   |   |